令和6年 3 月 宇美町議会定例会会議録（第4日）

令和6年3月12日（火曜日）

提出された案件は次のとおり

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員（12名）

1 番 小林 孝昭	2 番 安川 禎幸
3 番 高橋 紳章	4 番 丸山 康夫
5 番 平野 龍彦	6 番 安川 繁典
7 番 入江 政行	8 番 黒川 悟
9 番 鳴海 圭矢	10 番 白水 英至
11 番 藤木 泰	12 番 古賀ひろ子

欠席議員（なし）

事務局出席職員職氏名

議会事務局長補佐 中山 直子 書記 五所 万典

説明のため出席した者の職氏名

町長	……………	安川 茂伸	副町長	……………	原田 和幸
副町長	……………	一木 孝敏	教育長	……………	佐々木壮一朗
総務課長	……………	工藤 正人	地域コミュニティ課長	…	太田 一男
シティプロモーション課長補佐	…	浦本 亜衣	企画財政課長	……………	中西 敏光
税務課長	……………	田口 嘉輝	会計課長	……………	大神 隆史
住民課長	……………	八島 勝行	健康課長	……………	尾上 靖子
福祉課長	……………	佐伯 剛美	環境課長	……………	久我 政克
管財課長	……………	矢野 量久	都市整備課長	……………	藤木 義和

上下水道課長 …………… 前田 友博 学校教育課長 …………… 川畑 廣典
社会教育課長 …………… 竹下 健一 こどもみらい課長 ……… 飯西 美咲

10時00分開議

○議会議務局長補佐（中山直子） 起立願います。礼。おはようございます。着席願います。

本日の議事日程第4号を表示しておりますので、御確認ください。

○議長（古賀ひろ子） 改めまして、おはようございます。

本日の会議を開きます。

日程第1. 一般質問

○議長（古賀ひろ子） 日程第1、一般質問に入ります。

通告に従って質問をお願いします。

通告番号4番。5番、平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） それでは、皆様おはようございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

今般は、登下校の通学路の交通安全について伺います。

質問をする前に一言申し上げたいことがあります。通学路の交通安全のため、今朝も雨の中横断歩道に立ち、子どもの命を守るガードボランティアまた交通安全協会の皆様へこの場をお借りしまして、深く厚く心より感謝を申し上げます。このように感謝をしている人は、私だけではないと思います。本当にいつもありがとうございます。

また、ちょうど1週間前、3月5日火曜日ですかね午後3時30分、春日北小学校の小学校6年生の女の子の児童3人の下校中の列に、ライトバン——ワンボックスですかね、突っ込んできました。3人が負傷しました。そして、昨日、滋賀県におきまして、小学校3年生が道路横断中にトラックですかね2トン車ぐらいのにはねられ現在重傷でございます。一日も早い回復・快気を心より願うばかりであります。

それでは、お手元の①から質問をいたします。最初は、やはりグリーンベルトについて伺います。グリーンベルトとは、ドライバーからの視覚からも、また子どもの目線からも一目で分かる路側帯のカラー舗装化であります。このグリーンベルトは車道と路側帯を色で明確に区別をすることができます。

ここで最初の質問をいたします。本町におけるグリーンベルトの現時点での設置状況について伺います。

○議長（古賀ひろ子） 藤木都市整備課長。

○都市整備課長（藤木義和） 失礼いたします。令和5年の3月末時点での町道路線の14路線でグリーンベルトが設置をされております。延長に直しますと3,290メートルとなっております。

令和5年度では1路線を現在施工中でございまして、延長でいきますと170メートルを本年度に設置する予定としております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 現在、各地域からグリーンベルトの設置の要望が上がってきていると思います。その内容についてお知らせください。

○議長（古賀ひろ子） 藤木課長。

○都市整備課長（藤木義和） 令和4年度の宇美町通学路交通安全プログラムに基づく要望箇所は1か所ございました。この要望があった箇所につきましては、通学路にまず指定されていないということが1点、それから令和5年から6年にかけて他の事業が予定をされておまして、舗装の打ち替え計画があることから外側線等の引き直しを現在計画しているところでございます。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） では、次に行きます。2年前にも同じ質問をしておりましたが、合同会議についてお話をしたいと思います。つまり合同点検になりますが、子どもの目線や子どもの意見とかいうのは、この合同会議、合同点検には反映されているのか。

大人と子どもとは目線が違います。当然、視覚範囲も異なってまいります。子どもは危険な場所を肌で感じながら、毎日懸命に登下校を繰り返しております。通学路をふだんあまり歩いたことがない大人の方が年に1度だけの——12月ですかね合同会議は、通学路を点検する。果たして通学路に潜んでいる様々な危険な場所が分かるのでしょうか。これを踏まえて質問します。

大人が子どものSOSを吸い上げる、くみ上げることも大人の責任ではないでしょうか。子どものSOSを合同会議に取り上げているかについて伺いましょう。

○議長（古賀ひろ子） 川畑学校教育課長。

○学校教育課長（川畑廣典） 児童生徒の意見を取り入れているかという御質問ですけれども、児童生徒から直接意見が上がってくるというようなことはあっておりません。

ただ、PTAを通じて学校が保護者からの意見を収集するといったことで、子どもたちの意見も取り込むことができると思っておりますので、学校からPTAなどに対して情報提供などをしてもらいように働きかけをしていきたいと思っております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 分かりました。

それでは、②に行きます。スクールゾーンの通学路の路面標示や標識の管理状況について伺い

たいと思います。

本町には8校の学校がありますが、現在どのような維持管理、安全管理を行っているのか伺いたいと思います。

○議長（古賀ひろ子） 藤木都市整備課長。

○都市整備課長（藤木義和） 通学路における路面標示につきましては、先ほどから申しております宇美町通学路交通安全プログラムの要望箇所または自治会からの要望に基づきまして、交通安全特別交付金こちらを活用いたしまして、予算の範囲内で外側線の引き直しや注意喚起の表示を行っております。

それから、標識の管理につきましては、交通規制がかかる横断歩道を含む停止線、速度規制等の維持管理につきましては、福岡県公安委員会の管轄になりますので、要望があった際には、逐次、粕屋警察署と協議を行って、こちらから要望を出しているところでございます。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 当然、通学路・スクールゾーンには、路側帯と車道を区別する外側線がありますよね。ところが、この外側線が消えてしまい、車道と路側帯との区別が判別できないような危険な通学路・スクールゾーンがところどころにあります。御存じですか。

例えば、2つほど例を挙げます。宇美小学校ですね、裏門、御存じですかね。一日に多くの子どもたちが今朝も通学をしていました。路側帯の外側線が現在消えております。そして2つ目、桜原小学校です、正門、こども外側線が消えております。毎朝577名の子どもたちが登校をしていると思います。

ここで質問をします。外側線は極めて重要であります。この消えた外側線についてどのようにお考えかお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 藤木課長。

○都市整備課長（藤木義和） 町内には総延長で171キロの町道がございます。それを全て管理しておるわけですが、特に通学路である町道については、先ほどから申しておりますプログラム、それから自治会からの要望に基づいて消えかけている車道と路側帯を区切る外側線、それから注意喚起、文字等は、などのグリーンベルト——併せてグリーンベルトの設置を随時、順を追って行っているところでございます。

先ほど来、宇美小学校の裏門、それから桜原小学校というところはお話が出ておりましたけれども、その区域につきましては歩道がありますので、安全な歩道を通っていただくというところで指導を今後していきたいというふうには考えております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 確かに宇美小学校の裏門は安全な歩道があります。

ところが桜原小学校の正門には歩道がありません。御存じかと思えますけど、これに対してどのようなお考えか、再度お伺いします。

○議長（古賀ひろ子） 藤木課長。

○都市整備課長（藤木義和） いずれにしても桜原小学校につきましては、グラウンド側に歩道がございますので、そういった歩道を歩いていただくというのが、まず第1点であろうと思っております。

それから、消えかかっている外側線、こういったものは随時引き直しというところも行っていかないといけないというふうには考えております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 早急に今の消えた外側線について引き直してもらいたいと思います。

次に行きます。次は、カラー舗装などの路面標示について伺います。

交通量が多い道路に接している学校の正門や裏門の出入口の目の前の路面をカラー舗装化している学校は、他町ではよく見かけることがあります。

そこで、本町において具体的に3つ例を挙げますが、まず1番目、桜原小学校ですね、交通量が多い正門の前、先ほど外側線が消えたことについては引き直しを検討するというので、出入口の正面の前の路面にはカラー舗装がない状態です。次に2番目、宇美小学校ですね、先ほど言いました裏門、そして正門、交通量が多い割にはカラー舗装が設置されていません。最後に3番目、宇美南中学校です。この正門は下り坂のカーブであるにもかかわらず、路面にはカラー舗装がなく、毎朝多くの生徒がこの危険な下り坂のカーブを横断していることだと思います。

ここで質問します。交通量が多いこのようなところ、路面にドライバーから一目で見えるようなカラー舗装をすべきだと思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（古賀ひろ子） 藤木課長。

○都市整備課長（藤木義和） カラー舗装の御提案でございますけれども、路面標示につきましては、道路に文字を書くと、標示をするということになりますと当然粕屋警察署との警察協議は必ず必要になってまいります。

カラー舗装に限らず、文字や路面サイン、クイックシートというのがあるんですけれども、そういったもので注意喚起等の要望が上がっているところから随時行っているところでございます。

それから、先ほど交通安全プログラムの中でグリーンベルトというものもありましたけれども、令和5年度の同プログラムにおいて、宇美小学校区で2か所ほど、延長でいきますと410メートルの要望が上がっております。

今後の予定としましては、令和6年度に国の国庫補助申請を行い、令和7年度に事業を実施するという今計画を立てているところでございます。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 次に行きます。③横断歩道に立つガードボランティアについて伺いたいと思います。

ガードボランティアは年々減少傾向にあります。平均年齢も上昇、私も宇美西口交差点に初めて立って間もなく10年目を迎えます。例えば、宇美小学校区のガードボランティアは、コロナ前には120名いましたが、現在では3分の1の40名まで減っております。

では、質問します。ガードボランティアの現状についてどのようにお考えか、伺いたいと思います。

○議長（古賀ひろ子） 川畑学校教育課長。

○学校教育課長（川畑廣典） 現在、通学の見守りボランティアについては、コミュニティ・スクールの一環として地域の方々の協力で成り立っております。

冒頭にもありましたように、教育委員会としましても、こういった地域の方々の御協力で成り立っているということで、もう大変感謝をしておるところでございます。

学校としましては、今後もコミュニティ・スクールを継続していますので、地域とともにある学校を推進するというので、地域の方々の協力を得た上で、一緒に見守り活動を続けていきたいというふうに考えております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） ガードボランティアは、5年後、10年後減少傾向にあると思います。ガードボランティアを募集したことはありますか。募集をすれば志がある方が、必ず1人2人手を挙げてくれると思います。

一度、胸襟を開きガードボランティアの募集、自治会長に相談するとか積極的な情報発信これをしなければガードボランティアがゼロになります。いかがでしょうか。

○議長（古賀ひろ子） 川畑課長。

○学校教育課長（川畑廣典） 人員の確保については、学校から地域に向けてということで人員確保はしておりません。ただ、地域に対しては、先ほども申しましたように少しでも協力していただけるようということで連携を深めているところです。

情報発信につきましては、活動に対する感謝の会、またホームページや学校通信などで学校を紹介を行っている学校もあります。そういった情報発信を行うとともに、今後も地域への協力をお願いなどを含めた情報発信を行っていきたいというふうに考えております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 分かりました。

それでは、次に行きます。④を御覧ください。信号機と横断歩道の要望について伺います。

現在、自治会や各校区からこの設置の依頼があると思います、信号機とか横断歩道など、その内容について伺いたいと思います。

○議長（古賀ひろ子） 藤木都市整備課長。

○都市整備課長（藤木義和） まず、信号機につきましてですけれども、直近でいきますと3か所の要望が上がっております。横断歩道の設置につきましても、直近で3か所の要望が上がっているところです。

いずれの案件につきましても、粕屋警察署またはものによっては福岡県警のほうまで協議を行っておりますけれども、信号機につきましては、交差点の形状や地形が設置基準を満たしていないということの判断が下っております。民有地の買収を含む交差点改良が必要であるということから設置に至っておりません。

それから、横断歩道につきましても、道路の形状や見通しにより設置基準を満たしていないということから、現在設置には至っていないというところでございます。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） やはり何よりもドライバーからの見える化も大変重要になってくると思います。子どもをはじめ全ての歩行者の交通安全の確保は国からも強く求められているわけです。

そんな中、住民からの交通安全のための対策として様々な今要望が6か所上がってきておりますが、今できない理由を説明されたと思います。それで終わりでいいんでしょうか。やはり交通安全を真剣に考えるならば、代替案も出てくるべきではないでしょうか。

例えば、信号機や横断歩道が物理的に構造的に設置できない、困難であれば、路面標示をする、カラー舗装化をする、標識を増やす、ラバーポールを立てるなどの交通安全には様々な打つ手があると思います。そういう代替案を現在示しているのかについてお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 藤木課長。

○都市整備課長（藤木義和） 確かに信号機、横断歩道が設置できないという箇所はあります。そういったところについては、ドライバーへの注意喚起の文字もしくは先ほどお話をしましたクイックシート、1メートル50ぐらいのシートを路面に貼るというような対策を講じているところもございます。

今後も、そういったもので対応できるところは要望等に応じて設置をしていきたいというふうには考えております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 分かりました。

⑤番に行きます。ドライバーへの交通安全の指導について伺います。

ソフト面になりますが何点か質問します。横断歩道は歩行者が優先です。皆さん御存じでしょうか、信号機のない横断歩道では歩行者が最優先なんです。毎朝、旗持ちを行っている中で、横断歩道の手前で一時停止をしないドライバーがいます。本当に危険であります。

横断歩道手前で一時停止をしないドライバーに対して道路交通違反の罰則があります、御存じですか。大型車で1万2,000円の罰金、普通車で9,000円の罰金となっております。事故を起こした場合は、懲役3年以内、10万円の罰金となっております。

出勤に間に合わないのか、あるいは交通法規を忘れてしまったか、いろいろな理由があるとは思いますが、本当に危険な横断歩行者妨害行為であります。しばしば、はっとすることが起こります。横断歩道で止まるどころか、子どもの目の前をスピードを上げて通り抜けるドライバーもいます。

そこで、まずは町職員の皆さん、当然議員もそうですが、率先して飲酒運転をしない、スピード違反をしない、横断歩道の手前では止まるなどの交通安全の規範を示し、そして一般ドライバーの模範となる。今、私どもに強く求められていることではないでしょうか。

そこで、職員の皆さんはどのような交通安全運転に関してのコンプライアンス研修とか教育を受けているのかお尋ねをしたいと思います。

○議長（古賀ひろ子） 工藤総務課長。

○総務課長（工藤正人） 失礼いたします。まず、言われております職員に対する交通安全運転の指導についてですが、これまで交通安全に特化した職員研修というのは行ったことはないかなというふうに考えています。

以前、大分前になりますけども、青色防犯パトロール車を町が導入した際に、運転する可能性がある職員に対しましてパトロール実施者証が交付されましたが、この交付の際それから2年ごとに青色防犯パトロール講習を受講する必要があったことから、粕屋警察署の署員を役場に招きまして講習を受講しておりました。

この講習の中で、一般ドライバーの模範となる交通法規の厳守、それから歩行者等交通弱者に優しい運転の励行などについて講話を頂いておりまして、これが職員の安全運転意識の向上につながっていたのではないかと思います。

それから、最近の交通安全に関する町の取組といたしましては、昨年11月21日早朝に、宇美町宇美五丁目付近で高校生らを巻き込んだ重大事故が発生したことは記憶に新しいところだと思いますが、これを受けまして、同じく12月1日それから12月19日にJR宇美駅周辺におきまして、各関係機関と合同で交通安全啓発活動を実施いたしまして、ドライバーや通勤・通学者に交通安全の呼びかけを行っております。

これらと同じ時期に、実は運行管理コンサルティングを行っております民間事業者から、何か宇

美町のお手伝いできませんかといういろいろな提案を受けておりました。こんな中——協力事項の幾つかについて紹介しますが、提案事項としては、職員への交通安全啓発及び運転マナーの向上、それから、町が所有する公用車の安全及び適正な管理などが上げられておまして、これまでになかった取組が期待できるような内容となっております。

時期はまだ確定はしておりませんが、このような事業者と協力をいたしまして、職員に運転マナーや安全運転に係る研修等が年に数回今後実施できていければと考えております。

研修等を通じまして、職員に事故を起こさない、起こさせないという安全意識のさらなる向上を図っていければと考えておるところでございます。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 分かりました。

次に行きます。全国的にも交通事故の中では横断歩道の事故が突出しています。先ほども言いましたが、町職員同様に教職員も安全運転の規範を示す立場にあらうかと思えます。さらには、子どもの保護者への法令遵守の意識の向上を図れたらと思っております。

ここで質問をします。教職員や保護者への交通安全に対してのコンプライアンス研修とか啓発活動のお考えはありますか。

○議長（古賀ひろ子） 川畑学校教育課長。

○学校教育課長（川畑廣典） 教職員への交通安全啓発につきましては、学校においてコンプライアンス研修の中で実際に行っているところです。

この研修の多くは、実際の不祥事事例などを基に各学校で研修をしておりますので、細かい内容についても取り入れながら、今後も継続して研修を行っていきたいと思っております。

また、保護者に対しましては、PTAを通じて啓発等ができないかということで学校のほうに話をしたいと思えます。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 分かりました。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、最後6番目になります。私は、登下校の通学路交通安全対策は、大人の責任であると思えます。また、やり過ぎることもないと考えております。子どものSOSの声を拾い上げる、大人の責任です。

町長の就任時のスローガンの2番目、宇美町の宝である子どもを安心して産み・育てる町を目指しますとありました。歩行者優先の社会こそ、安心して産み・育てることになるのではないのでしょうか。

そこで、やはりここは通学路の交通安全であることから、最後に佐々木教育長にお尋ねをしたいと思います。

佐々木教育長は、10年前ですかね現役の校長時代、通学路をくまなく歩き回ったと聞いております。そして、ガードボランティアお一人お一人に感謝の気持ち、敬意を表されたと聞いております。教育者のかがみと大勢の方が称賛をしていることだろうと思います。

では、質問します。ラストサパーになろうかと思いますが、登下校の通学路の交通安全に対する佐々木教育長の今後のお考えといたしますか御見解といたしますか希望といたしますか、尋ねて私の一般質問を終わろうと思っております。

○議長（古賀ひろ子） 佐々木教育長。

○教育長（佐々木壮一郎） 失礼いたします。登下校の通学路交通安全対策に対する見解についてお答えをいたします。

宇美町においても、令和5年11月21日の朝の通学時間帯に大変大きな交通事故が発生したところで、改めて交通安全の重要性について再認識しているところでございます。

まず、PTA、学校、警察、教育委員会、地域住民、保護者などの関係者が連携し、共通した認識を持ちながら通学路の安全対策をしていくことは、大変重要なことです。

そのことは先ほどから議員もおっしゃっております。その際、通学路の合同点検や環境整備など机上の協議だけではなく、実際に通学路に出向いて危険箇所を把握し、通学路の安全対策を徹底することが大事だと思っております。

先ほど議員のほうからもお話がありました。私も校長時代に通学路を巡回し、登下校する様子や現場に交通立哨をされている見守りボランティアの方々と話すことで、できるだけ子どもの目線で危険箇所を確認したり安全対策を共に考えたりすることができました。

また、本町におきましては、通学路の安全確保に向けた取組も一層効果的に推進していくために、先ほど所管課の課長が述べておりました宇美町通学路安全プログラムを策定し、本町の関係各課が横断的な取組をすることで、通学路における児童生徒の安全確保に現在努めているところでございます。関係機関等と連携して合同点検を実施し対策内容について協議しております。この合同点検では、各関係機関の専門的な立場から御意見を頂き、通学路についての現地での点検結果に基づいた実効性のある安全対策を検討し改善を図っているところでございます。

今後も関係機関等と連携を強化しこのような取組を徹底継続することで、宇美町の宝である子どもたちを見守る人の輪が広がるように努めてまいりたいと思っております。

○議長（古賀ひろ子） 平野議員。

○議員（5番 平野龍彦） 本当に長い間お疲れさまでした。ありがとうございました。

これにて、私の登下校における通学路の交通安全対策における一般質問を終わります。

○議長（古賀ひろ子） 5番、平野議員の一般質問を終わります。

.....

○議長（古賀ひろ子） ただいまから10時45分まで休憩に入ります。

10時34分休憩

.....

10時45分再開

○議長（古賀ひろ子） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

通告番号5番。2番、安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 2番、安川禎幸です。それでは、質問させていただきます。

先日、宇美小学校校区コミュニティ主催の講演会に行っていました。当日は岡部病院内科部長の堀川先生による糖尿病についての講演が行われましたが、中央公民館の大ホールに多くの方が参加されており、非常に熱の籠もった講演会となりました。校区コミュニティ、あるいは住民の方々の間でも健康に対する意識が徐々に高まっているというふうに感じているところでございます。

令和5年7月に実施されました行政機構改革の中で、高騰する医療費の適正化対策に特化した医療費適正化推進室が設置されました。

当町の75歳以上の住民が加入する後期高齢者医療制度の1人当たりの医療費は、8年連続で県下で一番高い数値となっており町の財政に深刻な影響を与えています。

第7次総合計画の基本目標である「支えあい「いきいき」と暮らし続ける『元気』をうみだすまち」を実現するためには、医療費の適正化が急務であるというふうに考えます。

今回は、医療費適正化推進室の役割についてお尋ねします。

昨年末に国立社会保障・人口問題研究所によりまして、2050年の地域別の将来推計人口が発表されました。それによりますと、2050年に日本全体では2020年と比較して人口が約17%減少、1億500万人ほどになり、福岡県では総人口の12.8%が減少、高齢化率は35.1%になると予測されています。

また、2040年頃には団塊ジュニア世代層が65歳を超え、全人口に占める高齢者の割合が35%に達する、いわゆる2040年問題の到来が予想されています。

宇美町において、この2040年における人口及び高齢化率の予想がどうなっているのか、まずお尋ねいたします。

○議長（古賀ひろ子） 八島住民課長。

○住民課長（八島勝行） それでは、国立社会保障・人口問題研究所が公表した2020年から2050年までの人口推計に基づき、回答させていただきます。本町の総人口は、今後、右肩下がりに減少を続け、2040年時点の人口につきましては、2020年度と比較しますと11.7%、4,381人減の3万3,280人と推計されております。

また、65歳以上の高齢者の割合につきましては、6.6ポイント増の33.2%と推計されているところでございます。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 失礼しました。現在よりもさらに人口減少が進んで、高齢化率が高まるという状況になるようです。

続きまして、この人口増に連動します後期高齢者医療制度と介護保険、それから国民健康保険、国民保険は制度の改正等の影響もあると思いますが、それぞれの被保険者数の動向についてお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 八島課長。

○住民課長（八島勝行） それでは初めに、後期高齢者医療の被保険者数から回答させていただきます。

後期高齢者医療につきましては、団塊の世代が75歳に到達し始めた2022年以降急激に増加しておりまして、本年1月末現在の被保険者数は5,058人となっております。

高齢化の進展に伴い今後も増加の傾向が続き、本町では2035年（令和16年）頃にピークを迎え、被保険者数は7,000人以上となると予測されております。

その後、減少に転じますが、2040年以降も現在の被保険者数よりも1,000人以上多い状態で推移することが予想されております。

次に、介護保険でございますが、本年1月末の現在の対象者数は1万2,728人となっております。対象者数につきましては、2025年をピークに減少に転じ、その後は微減で推移すると予測されております。

また、65歳以上の第1号被保険者はほぼ横ばいで推移するのに対し、40歳から64歳までのいわゆる現役世代の第2号被保険者は右肩下がり減少し続け、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年を境に、65歳以上の第1号被保険者の割合が50%を超えると予測をされております。

最後に、国民健康保険ですが、被保険者数は団塊の世代の後期高齢者医療への移行や社会保険の適用拡大により減少の傾向が続いております。

本年1月末現在の被保険者数は6,742人で、5年前の平成31年1月の7,964人から比較しますと1,222人、15.3%の減となっております。この国民健康保険の被保険者数は、今後も総人口の減少に伴い、減少の傾向が続くものと見込んでおるところでございます。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 2040年になると後期高齢者が7,000人を超えると。また、介護保険は加入は40歳以上ですので、支えられる世代が支える世代より多くなるということにな

ります。まず、このピークを何とか乗り切る必要があるというふうにいるところだ。

続きまして、後期高齢者医療、国民健康保険の医療費及び介護保険介護給付費の総額1人当たりの額と県内の順位、それから医療費の推移についてお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 八島課長。

○住民課長（八島勝行） まず、後期高齢者医療のほうから回答させていただきます。

令和4年度の後期高齢者医療の総医療費につきましては約65億1,200万円で、前年度比7.4%の増となっております。今後も被保険者数の増により増加していく見込みでございます。

また、1人当たりの医療費につきましては139万8,809円、前年度比1.38%の増で県内の順位は1位となっております。

次に、国民健康保険でございますが、国民健康保険の総医療費につきましては、令和4年度は約32億7,500万円で、前年度比2.4%の減となっております。今後も被保険者数の減少に伴い、総医療費につきましては減少の傾向が続くものと見込んでおります。

また、1人当たりの医療費につきましては、これは公表されている最新のデータで令和3年度分となりますが、1人当たり43万7,866円、前年度比12.4%の増で県内の順位は現在16位となっております。

○議長（古賀ひろ子） 尾上健康課長。

○健康課長（尾上靖子） 介護給付費の総費用額につきましては、令和4年度では21億6,418万円、前年度比0.2%減となっております。

また、1人当たりの費用額は20万2,809円で、福岡県介護保険広域連合に加入しています33の自治体の中では、令和元年度以降一番低い順位が続いているような状態となっております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 後期高齢者の医療費は相変わらずの1位で、かなりそれも増加している。国民健康保険は、昨年お尋ねした令和2年度よりは、県で38位ということでしたので、ここも非常に高くなっているなというところだと思います。まだ医療費は高く介護給付費は低いという状況が続いております。

後期高齢者医療と介護保険は、かかった医療費、給付費に対してルール計算に基づいて市町村で負担することとなっております。

一般会計が負担します後期高齢者医療の療養給付費負担金と介護給付費にかかる負担金の推移、またこれらの負担金の一般会計の占める割合また金額の他市町村との比較について、どうなっているのかお尋ねいたします。

○議長（古賀ひろ子） 八島住民課長。

○住民課長（八島勝行） まず、後期高齢者医療についてでございますが、後期高齢者医療広域連合療養給付費負担金は、過去3年間、右肩上がり推移しております、令和4年度の負担金の決算額については4億8,044万円となり、令和3年度の決算額との比較では約770万円、1.6%の増となっております。

また、一般会計に占める割合につきましては、令和4年度の決算では、宇美町が3.4%、志免町が2.4%、須恵町は3.3%となっている状況でございます。

○議長（古賀ひろ子） 尾上健康課長。

○健康課長（尾上靖子） 介護給付費に係る町の負担金の過去3年間の推移につきましては、ほぼ横ばいという状況でございます。令和4年度決算額は2億7,052万円で、前年度比0.1%の減となっております。一般会計に占める割合につきましては、令和4年度決算額では、宇美町1.9%、志免町1.6%、須恵町は2.0%となっております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 後期高齢者の医療費あるいは介護保険に係る介護給付費の分、このかかった額に対して、市町村でルールに基づいて負担するということになっておりますので、宇美町は福岡県で一番高い比率で後期高齢者医療の負担金を支払っているという状況になっております。

これを改善するためには医療費適正化が必要ということで、昨年の機構改革によりまして、医療費適正化に特化した医療費適正化推進室が設置されました。この推進室において、医療費が高い原因について分析されていると思いますが、宇美町の高医療費の要因についてお尋ねいたします。

○議長（古賀ひろ子） 尾上課長。

○健康課長（尾上靖子） 医療費が増加している要因としましては、医療費の伸びの約半分が高齢化に起因するもので、残りの半分が人口の増減によるもの、あとは診療報酬の改定によるもの、あとはその他によるものであることが国の経済行政一体改革で示されております。このその他に関する部分が地域差であり町の特性となります。

医療費適正化におきましては、ここに係る要因を明確にすることができれば、医療費の伸びの抑制は可能に近づき、ほかの市町村との差を見いだせるのではないかと考えております。

そのような中、本町の後期高齢者医療費が高い原因につきましては、何らかの基礎疾患が重症化した状態で医療にかかることで、1回の治療費に係る医療費が高額となっていること、入院期間が長期化し1人当たりの入院単価が高くなっていることというのが分かっており、総医療費に影響を与えている状況でございます。令和4年度の実績を見ますと、総医療費に占める入院医療費の割合は63.8%で、1人当たりの入院医療費は約88万円という状況でした。

そのほか、医療費の適正化に直接結びつくと考えられる原因分析につきましては、本町におきまして、関節疾患や骨折を含む筋骨格系疾患による頻回受診の問題や、コロナ禍前後の医療費の動向から推察できる重複受診、それに伴う重複服薬の問題が考えられるところでございますが、この問題に関しましては、まだ十分に把握ができていない状況となっております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） なかなかたくさん要因が絡んでいて分析も大変と思いますが、こちららもどうか進んでいただきますように、よろしくをお願いします。

先ほども申し上げましたが、宇美町は医療費は高い、介護給付費は低いという状況が続いています。他市町では逆のケースもあるようです。あわせまして、いわゆる社会的入院が多いというのも考えられるのではないかと思います。これについて分析されていましてら回答をお願いします。

○議長（古賀ひろ子） 尾上課長。

○健康課長（尾上靖子） 要介護認定者が入所できる施設の入所定員が、75歳以上1,000人当たりで、本町は福岡県の半分以下であること、また他市町村と比較しまして、1件当たりの入院日数が長いという特徴があることから、社会的入院も医療費が高い要因の1つとして考えられますが、この件につきましては、現時点では明確にできておりませんので、この件につきましても今後分析が必要であるというふうに考えております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） やはり医療費適正化の対策を行うというときは、原因の分析というのが一番大事だと思います。さらなる分析をお願いしたいと思います。

それでは、医療費適正化についての現在の取組と今後の対策については、どのように考えているのかお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 尾上課長。

○健康課長（尾上靖子） まず、今年度に医療費適正化推進室で実施しました事業内容について御説明いたします。

今年度、本町の国民健康保険が福岡県から高医療費市町村に指定されましたため、高医療費の要因や国民健康保険事業の現状分析の結果を基に、生活習慣との関連が明確となっている大腸がんに着目しまして、大腸がん検診推進事業を今年の1月から実施しております。

この事業は、昨年12月の時点で大腸がん検診の未受診者を抽出しまして、その未受診者に対して直接便潜血検査のキットを送付し、検体を町内の医療機関に持参するというもので、受診行動につながりやすい体制を整備しております。

事業は3月末までとなっておりますが、開始から2か月余りが経過した3月6日時点の受診者

が175人と、これまでに実施した、申込みをされた方のみ検査キットをお送りする個別大腸がん検診の実績と比べますと、既に5倍という状況でございます。未受診者いわゆる健康無関心層への効果的なアプローチとなっていると思われまます。

また、精密検査の結果で、大腸ポリープの段階で治療が実施されたケースもあり、多額の費用を必要とします進行がんの予防につながったのではと考えております。

来年度につきましては、特定健診受診率の向上を目的として、特定健診とがん検診のセット割健診、動画の配信、国民健康保険加入者の健診の開始時期を従来の5月から4月に1か月間前倒しする早期集団健診を実施いたします。また、医療情報等分析業務委託を実施する予定となっております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 実は私も今年1月に国民健康保険に加入したんですが、今説明にありました特定健診の早期集団健診の通知が早速来まして、申し込もうと思って先にお尋ねしたら、もう埋まっていますと。非常にこういう取組ってというのは、なかなか面白い取組なのかなというふうに思うところです。

また、今説明されました来年度の新規事業で一番注目しておりますのは、大学と連携した医療情報等分析業務委託です。この中では生活習慣病の予防、ポリファーマシー分析、医療と介護の関連分析など、非常に今までにない分析を行う事業というふうになっておるところでございます。

この事業の内容、またどのような効果を求めているのかお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 尾上課長。

○健康課長（尾上靖子） 医療情報等分析業務委託事業の概要としましては、国民健康保険・後期高齢者医療の医療費及び介護給付費の調査、近隣市町村との比較について、大学等と連携した根拠に基づいた分析を行い宇美町が抱える課題等を抽出するもので、その結果を基に医療費の適正化に効果的であると思われる事業の検討や、適正な介護予防事業の見直しを行いたいと考えております。

具体的には、まず関節疾患や骨折等の生活習慣病以外での分析をはじめ、コロナ前とコロナ後の医療費に大きく変化があった年齢に着目した分析を実施したいと考えております。

次に、これまで町単独での分析が困難であった内容としては、近年、国のほうでも力を入れております多剤・重複服薬、重複受診分析などのポリファーマシー分析などを行いますが、人口の増減や診療報酬の改定など、町では抑制が不可能なその部分を明らかにした上で、本町の医療費の適正化に効果的であると思われる事業の検討を行う予定となっております。

そのほか別建てとしまして、65歳以上の方を対象に、病床数、介護施設定員数と医療費、介護給付費の関連分析、医療給付費と介護給付費の偏りに関する分析、介護給付費の内訳とサービ

ス種ごとの分析など医療と介護の関連分析を行いたいというふうに考えております。

以上が事業内容となります。最終的な分析結果が、今後の医療費適正化にどこまでつながるかは不確定ではございますが、これまで取り組んできた疾病予防の視点のみだけではなく、多角的な視点で分析を行うことで、本町が抱える本当の課題を抽出し、根拠に基づいた医療費適正化事業ができるのではないかとというふうに考えております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 従来と同じことをやっても意味はないというふうに思うところです。今までにない重層的で多様な分析を行うということですので、期待もしております。

医療費適正化推進室ができて9か月ですが、医療費が県で一番高いというのは非常に不名誉なことであるし、財政的な負担も生じているというふうに思います。職員の皆さんの一層の奮励を期待しますので、よろしくをお願いします。

それでは最後に、町長にお尋ねします。安川町政の大きな柱であります宇美町第7次総合計画の基本目標、「支えあい「いきいき」と暮らし続ける『元気』をうみだすまち」について、町長はどのような町の将来像を描いてあるのか、お考えをお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 安川町長。

○町長（安川茂伸） まず、町の将来像を述べさせていただく前に、昨年7月の機構改革で医療費適正化推進室を設置し、その推進取り組んできたわけでございますが、これは決して医療費の受診控えを進めるものではないということを、まず前置きさせていただきたいというふうに思っております。必要な医療はしっかり受けさせていただくということです。

私、選挙のときの公約の1つとかビジョン、目指す目標の中に、すべての町民が健康寿命を延ばし、支え合いながら安心して暮らせるよう、保健・福祉が充実したまちづくりを進めていきますというものを掲げております。

そういった取組の1つが、今回の医療費適正化推進室の設置であり、来年度予定しております特定健診受診率を目的とした特定健康診査とがん検診のセット割健診であったり、動画の配信、国保加入者の健診時期を5月から4月に前倒しする早期集団健診の実施、また医療情報等の分析業務委託をし、これに向かっていきたいというふうに思っております。

御質問の「支えあい「いきいき」と暮らし続ける『元気』をうみだすまち」、第7次総合計画の中にごございますが、具体的な将来像について個人のあるべき姿と町のあるべき姿という2つの視点からお話を差し上げたいというふうに思っています。

現在、本町では、第2期宇美町健康増進計画を策定しているところでございますが、この計画は、「いつまでも健康でいきいきと暮らせるまちづくり」を基本理念とし、町民の健康寿命の延伸を目指して生活習慣病の予防と重症化予防を重点的な取組としており、この計画を推進するこ

とで、第7次総合計画の町の将来像である「このまちが、いい。」わたしたちの誇り 宇美」の基本目標の1つの達成につながるというふうに考えております。

本計画の法的根拠でございます健康増進法の第2条には、健康づくりの国民の責務がうたわれているとおり、子どもから大人まで町民一人一人が健康な生活習慣の重要性に関心を持ち、町民自らが学び健康づくりを実践することが望ましい姿であるというふうに考えております。

そのためには、関係課が連携しながら、乳幼児期から高齢者まで各ライフステージにおいて一貫した生活習慣病予防対策として、先ほど申し上げました健診であるとか保健指導、健康教育などこれまでの取組を一層強化していく必要があると考えております。

また、町や地域が主催するイベント会場などに、健康に関する情報提供や体験型のブースを設置するなど、多くの人が集まる場所を活用して、健康への理解、啓発活動を行い、町民自ら健康への関心を高めるきっかけとしたいというふうに思っております。例えば、蹴—1 こないだございましたけども、蹴—1 の日に地域猫のブースを設けて、クラウドファンディングをお願いするとか、趣の異なった場所に、今日は健康のブースが出ているんだなとかいうことですね。健康に関心のある人ばかりが健康のところに行くんじゃないかと、全然違うことで行ったら、たまたまそこには健康診断を進めるブースがあったり、健康に関する情報提供の場面があるというふうな、そういったことも考えられるのではないかなというふうに思っております。

健康は、失って初めてそのありがたさを知ると言われるように、少なくとも生活習慣病のように、対策を講じれば予防ができる病気で健康を失うことがないよう、そうなる前に町民自らが適正な生活習慣や、自らの健康問題に気づくということがやはり大切であろうと。そして、そのことについて学ぶ場を提供し続けるのが、私たちの役割ではなかろうかというふうに思っています。

しかしながら、個人の健康を守るためには、やはりなかなか個人だけでは困難であると思っております。まさか——病気にかかる方は、まさか私が病気にかかっているとはというふうな言葉もよくお聞きしますが、そのためには医療機関や事業所、地域が一体となって、個人の健康への学びを応援する、支えていくということが必要であろうというふうに思っております。

先ほど議員のほうからもございましたが、宇美小学校区コミュニティ運営協議会が計画されて、町内の医療機関、岡部病院の堀川剛先生による糖尿病の講演会がございました。こういった機会を町、地域、そういう医療機関が一体となった健康の学習の場であったし、すばらしい講演会であったなというふうに、私も参加させていただいて思っているところでございます。

また、本町が取り組んでおります高血圧ゼロのまちに賛同していただいて、町内には減塩弁当であるとか、そういったものをテーマにして減塩レシピであるとか、そういったものの提供している飲食店もございます。また、しょうゆを造っていただいているところもございますし、従業員の健康づくりのために町のトレーニングルームを活用していただいているという企業もあるよ

うでございます。このような官民一体となった健康づくりの取組の輪を広げていくことが重要であろうというふうに考えています。

老いは誰も避けられないわけですが、人生100年時代を迎える中で、老いの坂道を少しでも緩やかにして、住み慣れた宇美町また住み慣れた地域コミュニティの中で、最後まで自立して地域の方々と一緒に生活していただきたい。なるべく自分の足で長いこと歩いて、自分で食べて、そういう地域にしていきたいなというふうに思っているところでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） ありがとうございます。町長の思いがじわっと伝わってまいります。町長が言われました町、医療機関、事業所、地域が一体となった健康への取組、これが「支えあい「いきいき」と暮らし続ける『元気』をうみだすまち」につながるのではないかなというふうに思うところです。

そこで、安川町長に1つお願いがございます。冒頭申し上げました宇美小校区コミュニティの講演会の御挨拶の中で、町長が昔スポーツをやっていたとは思えないような体形になってしまったという話をされておりました。ここは宇美町を健康の町にするというところで、町長自ら広告塔になっていただけないかなというふうに思っているところです。

健診結果を基に保健指導あるいは食事や生活習慣の指導を受けていただいて、使用前、使用后じゃないですけど、これだけこういうふうな体形になり痩せましたとか、あるいはこれだけ健康になりましたと、町長自ら動画とかSNS等で発信していただいたらどうやろうかと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（古賀ひろ子） 安川町長。

○町長（安川茂伸） なかなか自信はないわけですが、実は私、役場に入って、25歳のときに入ったんですけど、それから1年に1回、役場の中の健康診断あるんですけど、そのデータ全部取っているんです。全部取っていて、あるとき保健師の方からそれ使わせてくださいって言われて、そのデータを見せたんですけども、着実に年を取っておられますねということ、生活習慣病、精神病予備軍に着実に近づいていますよということを言われたところでございますが、挨拶の中でも申し上げましたけど当時20代からというか、20代、30代とかはスポーツを、サッカーとかをずっと長いことやっていたんで、今から10キロぐらい痩せてましたんで、今一番、私の人生の中で太っていることになっておりますんで減塩にも気をつけ、そういう某トレーニングジムみたいなことはできないと思いますけども、使用前、使用后みたいなことができればいいかなというふうに思っていますが、あまり期待されずに、まずは内面の健康からいきたいなというふうに思っています。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 前向きな答弁ありがとうございます。やはり町長が先頭に立って、健康の町というところで推進していただけたらと思うところです。そうすれば、「支えあい「いきいき」と暮らし続ける『元氣』をうみだすまちづくり」も一層進むのではないかと思います。もちろん議会側も、何かそういうやれることがあったら何でもやりたいと思います。よろしくお願いします。

この医療費適正化、これを進めることで医療費に対する財政的な負担、あるいは健康な高齢者が増加することで結果的に健康寿命が延びて元気な高齢者が増えますと、また元気な住民の方が増えますと、町の活性化につながるのではないかなと思うところです。

本日いろんな答弁いただきましたが、最後に、最後の最後に、本日、健康課尾上課長、今回の議会が一番最後の議会になると思います。あわせて企画財政課の中西課長、環境課の久我課長、こどもみらい課の飯西課長、それから3月末で退職される職員の方々長い間お疲れさまでした。今まで皆さん、いろんな苦勞もされてきたと思いますが貴重な知識と経験をお持ちですので、これからも側面からまちづくりを支援いただけたらと思います。よろしくお願いします。

未来の宇美町がより一層活気ある町になりますことを祈念いたしまして、1つ目の一般質問を終了します。

○議長（古賀ひろ子） 続けてどうぞ。安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） それでは、続けまして、2つ目の質問になります。

今議会で新しい教育長の同意案件が提出されておりましたが、長きにわたって宇美町の教育行政を牽引してこられました佐々木教育長が3月で退任されることになりました。

今回の質問は、宇美町の教育のこれまでの取組と今後の展望について、教育長にお伺いしたいと思います。

「子どもは、宇美町の宝」で始まる宇美町第7次総合計画の基本目標は、「みんなで「子どもの育ち」を応援し生涯にわたって「学び」を楽しむ『笑顔』をうみだすまち」となっております。

学校教育については、宇美町はこれまでコミュニティ・スクールの導入をはじめ、調べる学習、うみっこ健診等の先駆的な取組を行ってきた経緯がございます。

その中で佐々木教育長は、前町長時代より学力向上、不登校対策、ウェルビーイングといった様々な教育施策に取り組んでこられました。

まず、これまでの取組についてお尋ねします。

教育長は、2020年の宇美町100周年記念式典で、宇美町教育の日を宣言されました。そこで今後、宇美町に生まれ育つ子どもが豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、宇美町の学校、家庭及び地域社会が連携して教育の充実と発展を図ることが

重要であると宣言されました。

この宣言からは、家庭や地域の方々に教育に関心を持ってほしい、協力が何よりも重要であるという思いが伝わってきます。そこで、この宣言にある理念を踏まえた上で、特に力を入れてこられたことがありましたらお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 佐々木教育長。

○教育長（佐々木壮一郎） 失礼いたします。義務教育において、誰一人取り残さないという考えを大事に実践してきました。

具体的に教育施策を進めるために、1つは、学校が元気であること。宇美町の子どもにとって学ぶ喜び、特に子どものウェルビーイングを向上させ、学校適応感を実感できる学校を構築するよう指導してきました。

2つは、教師が元気であること。子どもを深く理解しその理解の下、子どもたちの力を引き出し成長させる。そして誰一人取り残さないということを徹底する指導力を高める支援をしてきました。

3つは、地域が元気であること。学校が地域や家庭と教育目標を共有し協働して子どもを育てる教育の在り方を求めるなど、教育理念に取り組んでまいりました。

そして、このような考えを踏まえ、私は学力向上の取組の徹底継続、不登校対策についての新たな取組、さらには新たな時代に対応した教育施策としてICT活用に取り組んでまいりました。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） ありがとうございます。それでは次に学力向上、不登校対策、ICTの活用について、これまで取り組まれたことをお尋ねします。

まず、学力向上についてですが、2月20日に今年度も学校教育推進協議会が開催されましたが、その中で町内の各学校が重点課題として提案され様々な取組が実施されることは承知しておりますが、教育委員会としては、それらに対してどのような支援をされているのかお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 佐々木教育長。

○教育長（佐々木壮一郎） 現在、学力向上の取組につきましては、学力低位層の子どもたちを支援するために、学習支援のサポーターなどの人的措置をしております。

しかし、中学生にとっては、直接的な学習支援だけでなく、学力の背景にある生活を支援することが重要であると思われるので、そのための支援といたしまして、スクールソーシャルワーカーなどの積極的活用を図ってまいりました。

また、教育委員会内の学力向上支援、ICT活用支援、不登校対応支援のための人的措置を行い、学校に対して側面的な支援を行っております。

さらには、私自ら学校に出向きまして学力向上ヒアリングを実施しました。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 学力は保護者さんにとっては最大の関心事だと思いますが、いろいろな取組支援が行われるというところで今後も継続した取組をお願いしたいと思います。

さて、昨年開催されました議会、厚生文教常任委員会の学習会の中で、不登校の増加や生徒指導上の問題、特にいじめの実態が報告されました。これらは全国的な問題であり、大変危惧しているところです。今後の取組についてお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 佐々木教育長。

○教育長（佐々木壮一郎） 取組の1つ目は、学級集団調査、いわゆるQ-Uというのを今やっているわけですが、そのQ-Uの本格実施です。現在、Q-Uを実施している中で、今後は子どものストレス状況や学級集団の状態を把握し、気がかりな子どもへの声かけや面談を行い、不登校やいじめの未然防止に努めることが大切だと思っております。

2つ目は、新たな不登校支援の取組です。不登校や不登校の予兆を見せる子どもに対して、柔軟に学べる校内適応指導教室の設置で対応したり、支援員等が家まで迎えるアウトリーチを行ったりするなどの新たな不登校支援の取組が必要だと思っております。

3つ目は、生徒指導上の重点的な支援です。いじめの要因の中には、人間関係などの生徒指導上の課題との関係性が考えられます。現在、町内各学校において生徒指導上の取組を実施していますが、学校の努力だけでは難しい状況にあり、それを支援する施策が必要になります。今後はスクールソーシャルワーカーの増員や生徒指導等を補佐する職員を配置する必要があると思っております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） やはりよく言われますが、事件は現場で起こっているというところで、また一番先生方に負担になるところだなというふうに思います。現場任せにならないように、今後も支援を含めた体制づくりが必要だと感じているところです。

それでは次に、現在GIGAスクールの取組が進められております中で、町内の各学校のタブレット等の活用がなされていると思いますが、今後必要なICT環境の整備についてお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 佐々木教育長。

○教育長（佐々木壮一郎） 現在、ICT教育の実践を進めておりますが、ICTの活用は、授業の質を高め、学習内容の理解を深めることにつながります。そのためのICT環境整備の充実が必要だと思っております。

来年度の予算において、電子黒板の整備拡張の要求を進めております。今後は各学級に1台は必要になってくると思っております。

また、教職員の多忙化解消へ、次世代型学校 I C システムとして、総合型校務支援システムを充実させ、成績処理や出欠管理などの教務系、指導要録などの学籍系などの情報を電子化し、データの一元管理を進めることが必要だと思っております。

このように I C T 環境整備を充実させ、業務効率化を進めることで、教職員が子どもを確かに見取り育てることができると思っております。

また、学校 I C システムの活用を推進するための I C T 支援員の配置も必要になってくるものと思っております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） 世の中はまさに I C T 化の波が日進月歩で進んでおります。また、それにより最も変化したものの1つが教育環境じゃないかなというふうに思うところです。

I C T 環境の整備によって授業の質を高めるのと同時に、教育現場、あるいは先生方の業務の負担軽減につながるというふうに思います。これからも積極的な推進が必要だと思うところです。

2月27日に開催されました宇美町の教育の未来を考える懇談会を傍聴させていただきました。この会議は、教育委員会、学校、保護者、地域の方が参加されておりまして、積極的に教育の現状や子どもたちの実態、それについてそれぞれの立場で意見を戦わせてありまして、非常に有意義な会議であるというふうに感じました。皆さんの教育に対する熱量が非常に伝わってくる会議でした。

佐々木教育長は、小学校教員を皮切りに、教育大の附属小学校、あるいは県の教育事務所、県の教育委員会、最後は宇美小学校校長を歴任され、退職後は役場のまちづくり課で地域づくりコーディネーターを務められ、その後、宇美町教育長になられたという非常に多彩な経験をされております。

最後に、教育長に宇美町の未来に向けた教育についての展望、そして今までのキャリアを振り返られて、どのように感じていらっしゃるのかお尋ねします。

○議長（古賀ひろ子） 佐々木教育長。

○教育長（佐々木壮一郎） まず、教育宣言にありますように、現在は持続可能な社会のづくり手を育成するコンセプトを掲げて、解決すべき多様な課題解決の糸口としての身体的、精神的、社会的によい状態を意味する、先ほどから申しておりますウェルビーイングを向上させることを目指して、学校や家庭や地域とのつながりを育む教育施策を進めているところでございます。

そこで、宇美町の未来に向けた教育についての展望として申し上げたいことは次のことです。総論となりますが、これからの予測不可能な時代の中に、未来を担う子どもの成長のためには、地域総がかりでの教育の実現が不可欠です。また、子どもたちは学校や家庭だけでなく、地域とのつながりを持ちながら成長していくことが重要だと思っております。

このような考えに至ったのは、役場の地域づくりコーディネーターのキャリア経験からです。この経験から、教育長になりまして、地域で学び、地域を知り、地域を深く学ぶなどの地域や学校のニーズや思いを大切にされた教育こそが宇美町に必要なだと思ひ、これまで町内の各学校や教育実践の場で主張してまいりました。

今後は、このような考えに立ち、地域と共にある学校づくりの推進や地域との連携・協働による宇美町ならではの新たな地域型の学校づくりを目指していくことが必要になってくるものと思ひております。

○議長（古賀ひろ子） 安川議員。

○議員（2番 安川禎幸） ありがとうございます。「子どもは、宇美町の宝」で始まります宇美町第7次総合計画の基本目標は、「みんなで「子どもの育ち」を応援し生涯にわたって「学び」を楽しむ『笑顔』をうみだすまち」となっております。

この目標を達成するためには、今教育長が申されました、地域と共にある学校づくりの推進や地域との連携・協働による、新たな地域型の学校づくりが重要になってくるというふうを感じたところです。

本日は学校教育、あるいは全般についての宇美町のこれまでの取組と今後の展望についてお尋ねしましたが、教育長、本当に長い間お疲れさまでした。

本日いろいろなお話をいただきましたが、教育長自身、貴重なキャリアをお持ちですので、これからも町の教育、あるいは地域の課題の解決、それから新しいまちづくりに力添えをいただけたらと思ひます。

未来の宇美町の教育のますますの充実を祈念いたしまして、一般質問を終了いたします。御清聴ありがとうございました。

○議長（古賀ひろ子） 2番、安川議員の一般質問を終わります。

○議長（古賀ひろ子） 以上で、本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

○議会事務局長補佐（中山直子） 起立願ひます。礼。お疲れさまでした。

11時33分散会